

平成 28 年度 第2回多治見市教育行政評価委員会 要点録

■日時 平成 29 年 3 月 24 日（金）9 時 30 分～

■会場 多治見市役所駅北庁舎 4 階 第 3 会議室

<出席者>

教育行政評価委員：南部初世委員長、武笠正治副委員長、前田稔子委員、松原信継委員、矢沢義幸委員
事務局 渡辺哲郎教育長、永治副教育長、鈴木教育次長、仙石教育総務課長、河本教育研究所長、
高橋教育推進課主幹、教育相談室：加藤課長代理、教育推進課：伊藤香代、山内祥子

■ 開会：教育長挨拶

■ 議事

1 平成 28 年度多治見市教育基本計画～たじみ教育生き生きプラン～について

(1) 4 大プランについて

① インクルーシブ教育推進プラン 資料 1

- ・(委員) 保護者への説明について不安感などの問題点がある。特に低学年から中学年への移行時に支援形態が変わって戸惑うこともあると聞く。教育委員会がチームとしてどの程度役割を担っているのか？
→ (教育委員会) 不安感等を防ぐため、巡回相談などを実施し、学校から保護者に丁寧に説明をしながら合意形成を図っている。具体的な声があった場合は教えていただきたい。
- ・(委員) 中学校から高校への引継について、県内 PTA でも要望の声があがっている。ぜひすすめていただきたい。
- ・(委員) 広域でみても様々な事件があるが、広い範囲での情報共有をしっかりとできるとよい。
子どもの問題は成育歴に起因することも多い。切れ目のないつながりを大切にしてほしい。

② 親育ち 4・3・6・3・たじみプラン 資料 2

- ・(委員) 第 1・2 期のモデル校区はどこか。また指定終了後はどうなっているのか。
→ (教育委員会) 第 1 期は笠原校区、第 2 期は多治見中学校区。指定終了後は公民館等が中心となって地域主体で継続し、進めている。
- ・(委員) 子どもの貧困の問題も関連している。貧困のご家庭は親育ちや家庭教育が難しい面がある。
弱いところにどう手を差し伸べていくか、他機関と連携をしてターゲットを絞る施策が必要。
→ 特に孤立した親などの対応を大切に関係機関と連携していく。
- ・(委員) 4 大プランの中ではこれが一番難しい。さまざまな施策を行う中で、本当に出てきてほしい親が来られない。貧困に対する計画を充実させる必要がある。

③ 習慣向上プロジェクトたじみプラン 資料 3：構想図

- ・(委員) 多くの子どもがボランティア活動をしているが、個人的に参加する子もいて学校が把握していない場合もある。証書みたいなものを出して地域と学校が連携できるとよい。
→ (教育委員会) 教育長賞詞の制度で、各学校に出向いて子どもの活動を称えている。御提案についても今後考えていきたい。
- ・(委員) 広報に市民意識調査結果が掲載されていたが、まちづくりに関わる子どもの権利に対する期待度について、高校生は比較的高いが、おとな全体では低い。学校教育が大きい意味を持つ。どういった形がよいのか検討しながら、子どもの権利をまちづくりに積極的につなげていってほしい。

い。

④ 子どもの健康・体力づくりたじみプラン

資料：広報3月号特集P4

- ・(委員) 明確な成果が出ている。このまま継続されたい。
- ・(委員) 今後小学校での英語教育が入り、時間数的に体力関係の授業に影響がでないか危惧する。体力の基盤づくりは本当に大切。
- ・(委員) 小学校の運動という捉えが中学校になると競技スポーツになり、好き嫌いの2分化の傾向がある。この課題を保護者からの視点と合わせて考えてほしい。
→ (教育委員会) 今年度は小学校で意識調査を実施した。来年度は中学生を細かくみていく予定。
- ・(委員) PTA の会議で、遊具の少ない小学校の課題があった。いかに子どもを外にひっぱり出すか遊具を増やすなどを検討いただきたい。

(2) 重点施策について (プレゼンテーション)

① 30人程度学級

資料：広報3月号特集P2

- ・(委員) すばらしい施策である。ただ、生徒の半分近くはまだ効果を十分感じていないという結果でもある。これまで手を挙げられなかったけど、発言するようになるなど、少人数であることが授業方法や授業自体の改善に反映されていくといい。
→ (教育委員会) 確かに、生徒からは、大人数だったけど楽しかったという意見もある。しかし、成果としては、教師対全体ではなくグループでの授業が行えるという変化が出ており、意見がよく聞けるようになった、集中できるようになったといった効果がでている。
- ・(委員) アンケートでのマイナスの意見はどのようなものがあり、今後どのようにすすめていくか。
→ (教育委員会) 保護者からは、きめ細かな指導を期待できるかどうかは教員の意識次第という辛口の意見もあった。環境は整った。その中でどうやっていくかは大きな課題として受け止めていく。
- ・(委員) 教育行政の立場としての施策としてはよい。ただ、学校のこと、教育の質は見えない。併せて、実質的に各学校がどうか検証する必要がある。
- ・(委員) アンケートや言葉だけで表現できないことがある。特に中学生のこの時期はもっと複雑なもの。その時の状況によって子どもたちが変化している。数字だけではわからないことへの留意が必要。

② 土曜学習

③ 連合生徒会 (教育研究所長) ~プレゼンテーション

- ・②③共通：(委員) 興味深い取組。是非続けていただきたい。

④ 不登校生徒の状況と対応 (さわらび学級) ~プレゼンテーション

- ・(委員) 不登校の予防策はどのようなか
→ (教育委員会) ひとつは、自己有用感、魅力ある学校づくり。ふたつ目は、調査として、ハイパーQU、いじめアンケートを行っている。
- ・(委員) 植物を育てているのはよい取組み。その他、動物を育てるのはどうか。癒しの効果がある。また、ボランティアは自分で困難さを解決し、心のエネルギーにつなげることができる。さわらび学級は、ここから育っていける貴重な場所である
- ・(委員) ひきこもりについては、自律神経の不調が関係する場合もある。決してなまけているのでは

ない。

- ・(委員) このデータは学校の認識に基づくデータ。不登校は学校に起因する場合が多い。そろそろ学校にメスをいれるべきである。各学校に何人いて学校にどんな問題があるか究明することが大切。ひとりの先生や家庭のせいにしてしている実態がある。おもとの学校を変えていかないといけない。
- ・(委員) 子どもの権利相談室でも不登校の相談が多い。権利侵害を伴う相談もきている。教育委員会との連携が必要。
- ・(委員) 今回、「教育機会確保法」が成立した。その中で自治体レベルで不登校のカリキュラムを検討することが求められている。重要な問題なので慎重にやっていかなければいけない。
- ・(委員) 学習面でも義務教育における最低限の学力が身につけられることをカリキュラムの最終目標にしてほしい。

(3) 平成 28 年度の具体的施策実施状況について (関係課の事業実施) **資料 4**

- ・(事務局) 次年度実施する報告書及び次期計画策定の基礎資料とする。次回委員会でまた御意見いただきたい。

2 次期 多治見市教育基本計画次期計画 (平成 29 年度策定) について 委員会・スケジュール等

3 多治見市教育委員会たよりについて

- ・(委員) 子どもたち、保護者のことがよくわかる。

4 その他・事務連絡

- ・(委員) 子どもの貧困については懸念事項。特に、放課後にどんな支援を行うか。学習支援教室などは現在行っているのか。一般には、学習支援教室は福祉部局の主導だが、全国的には、教育委員会が主導して成果をあげているところもある。そのような動きも参考にしたい。
→ (教育委員会) 現在は学習支援を行っていない。
- ・(委員) 自分の兄弟など家族の発達障がいなどについては、他の人に言ってほしくないという子どもの声がある。おとなの把握は必要であるが、そういったケースでの配慮が必要。
- ・(委員) 障がいについては特別扱いをしてはいけないという医師の見解もある。支援者やコミュニティーにきちんと伝えて認められることも必要。
- ・(委員) このような委員会での情報が PTA までなかなか共有されない。PTA 連合会に教えていただくことも大切。さらなる情報共有を願う。
- ・次年度の予定等



<資料>

- 1 4大プロジェクト取り組み状況
- 2 広報3月号 (特集:教育現場の今)
- 3 平成 28 年度の具体的施策実施状況について (関係課の事業実施)
- 4 多治見市教育委員会たより (平成 28 年 No. 7~)